



# ロータス林のわくわく通信 9月号



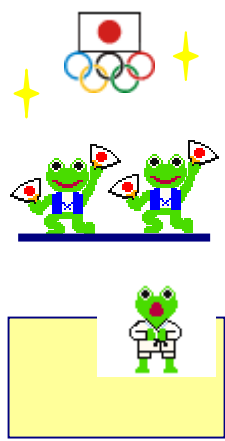
## 9月 September

9月は長月と呼ばれ、一年のうちで最も月が美しく夜が長く思われる月、長く続いた超暑い夏も終わりお月見の季節になりました。今年、やっぱり一番熱かったのはオリンピックだったのではないのでしょうか。

谷選手の金から始まり女子5階級を制した柔道、水泳の北島選手や徳島出身の柴田亜衣選手、マラソンで野口選手、体操ニッポンを28年ぶりに思いおこした男子団体、惜しくもロシアに敗れましたが燃焼しきったシンクロ、繰り越し金の室伏選手と毎日毎日感動の連続で元氣とやる氣とパワーをもらいました。

先日、NHKで室伏選手のドキュメント番組がありました。彼の言葉で「投げる度にワクワクする」という言葉がありました。

私達もワクワクしながら毎日を生きる。そんな風でありたいですね。



## 喜多やんの自動車コラム

### A/Tオイルについて

そもそもA/Tオイルとはどんな働きをしているかという自動変速機を円滑に正確に作動させる潤滑油で、長年交換しないと①発進・加速のもたつき②変速機のショック増大③燃費の低下などの症状が現れます。

おすすめ交換時期はメーカーの基準によると“無交換でも可”って書いてある車種も出てきている昨今、インターネットで調べてみても 2,000 km～50,000 kmと各社様々です。

10万kmまで交換不要って書いてある車種に、なぜメーカーも、ガソリンスタンドや整備工場でも交換をすすめるのか？答えは・・・

もしも10万kmまで交換しなくても、不具合が5年10万kmのメーカー保証中におこり、A/Tミッション本体交換となれば、修理代はメーカーが見てくれますが、5年を超えたり、走行距離が10万kmを超えてしまえば、交換にともなう修理代は自己負担となるからです。なので、必要以上に早期に交換する事は地球の為に良くないし、経費もかかる事なので、林自動車では5年5万kmでの交換をおすすめしています。でも、長年交換せずに6万kmも7万kmも走っているお車の使用者の方から「A/Tオイルの交換を…」とご用命下さっても、いきなり交換すると急にオイルがサラサラになり大量の汚れがはがれ、その汚れが内部に詰まり回復不可能となってしまう場合があります。オイル交換をすると逆に調子が悪くなるって事です。こんな場合は残念ですがお断りしています。

## おすぎの2番弟子

### なつ子の映画コラム

ゲームファンなら誰でも知ってるララ・クラフトは世界で2400万本を超えるヒットとなったゲーム史上最高の人気を誇るアクションゲームソフットのヒロイン。世界で数千を超えるゲームのファンサイトでもこのララをアンジェリーナジョリーが演ずる事を最高の賛辞を持って受け入れられ、まさにファン一体となった映画作りが進行した“トゥムレイダー”ララは、イギリス貴族の由緒しき令嬢にして名うてのトレジャーハンター。優雅さとお転婆が同居していて、タフでセクシーでスタイリッシュで冒険心旺盛・華麗にしてダイナミック・グラマラスな肢体と肉厚のポツテリ唇でファンを魅了します。

シリーズ①は、惑星直列パワーを手中に収め、世界を支配しようとする秘密結社相手に、シリーズ②は地上に疫病をもたらしたとされるパンドラの箱を恐るべき生物兵器として利用しようとする人物相手に、そうはさせじと世界を股にかけ人類を救う命がけのアドベンチャーに繰り出し、危機また危機を突破して行きます。

敵と壮絶な海中バトルに、中国山中の洞窟からフリーフォールで脱出。

上海の広場に降り注ぐ銃弾の雨をかいぐり、超高層ビルからウィングスーツでムササビダイブ。フーッ！もうその格好良さと言ったら・・・それにワークブーツにTシャツ1枚での犬ソリのあの楽しそうな事。まさしく生まれつきのハマリ役。

さて、そのアンジェリー。実生活ではトゥムレイダーのカンボジアロケ以来、難民の支援として数百万ドルの巨額な寄付をし、難民だった子を実子とするなど素晴らしい功績を残しています。また、カンボジアの奥地に家を建て、朝食には昆虫を食べているそうで「ゴキブリと蜂の幼虫を食べるのは大好き。ピーナッツをつけてもいいわね。」ですって・・・キャー！

## サラリーマン

川柳

「母・妻編」



- ◆子供より ママが はりきる 七五三
- ◆カーナビに 「ハイ」と答える うちの母
- ◆憎らしい つまんんだ お肉 肉らしい
- ◆家事分担 それパパ これパパ ママはどれ？
- ◆「ご飯いる？」「いる」の返事に 妻不機嫌
- ◆恋敵 譲れば良かった 今の妻
- ◆妻の声 昔ときめき 今動機

## あるお客様の話

ポッキーのご冥福をお祈りします

先日、シースー（名前はポッキー）を飼っていらっしやるお客様のところへ立ち寄りしました。



看病のいかにもなくポッキーは亡くなってしまっていました。二人で泣きました。

そのお客様の話です。ポッキーは闘病中だったのでですが具合が良さそうだったので6月のその日、蔵本公園へ散歩に行っただけです。そこへいつも遊んでいる大きな犬が駆け寄ってきて、ポッキーはびっくりして意識不明に。奥さんは慌ててポッキーを抱き上げ蔵本公園前の〇〇商店へ駆け込んで事情を説明し「電話をお借りできないでしょうか？」とお願いした所「あいにく電話は貸しておりません。公園の中に公衆電話がありますよ」との返事。途方に暮れながら信号待ちをしていると茶髪の若い男の子二人連れが「おばちゃんとしたん？」と声をかけてくれ、一人が携帯で病院に電話をしてくれ、一人がタクシーを拾ってくれたそうです。奥様はその若い二人連れにとっても感謝していらっしやいました。殺伏とした世の中なのかもしれないが、人が困っている時、無関心で何も感じない人間にはなりたくないなと思いつつ、その若い人達のような行いが出来る人がもっともって増えていけば、暮らしやすい世の中になっていくのではないかと思いつつ、ポッキーのご冥福をお祈りします。

